

松本秀峰中等教育学校

「国際的に通用しかつ地域貢献ができる人材を」。そう語るのには、松本秀峰中等教育学校の菱田智晴教頭だ。

同校は2010年開校の新設校。本年度、高校3年生にあたる初の卒業生を送りだすといふことで注目が集まる。と論理的思考力を養う力を入れているのが英語教育だ。毎日、英語の授業をおこない、英語指導助手(ELT)による指導も授業内外

問わず充実。イギリスへの海外研修も設けられてい。さらに自発的発言力

「教師と生徒がともに成長できることが理想」とも菱田教頭は話す。「校内における教育者が県内出身者はか

りだと視野が狭まつ

ります。県外出身

2時間に限られる。そ

か。

「教師と生徒がともに成長できることが理

なわれているという。

いるという。

開校以

来初の卒業生となる1

期生が、この学校で過

ごした6年間を自身た

そしむ。部活動は、月、

水、金曜日のそれぞれ

生かしていくのだろう

か。

常に新しく広い視野求める

の教師から他県の様子を聞くことで刺激を得た。ため、学年ごとに課題を聞くことでもできます」

の2時間のなかでどれだけ効果的に活動できることもできます」

るかが求められる。そ

には10年かかる」と菱

田教頭が語ったよう

は学業でも同様だ。

田教頭が語ったよう

うした同校の教育

に、これから同校に

対して大いに期待が募

る。

(後藤明)



4学年時の海外研修の際、ケンブリッジ大学でスピーチをする松本秀峰の生徒